



## 編集後記

■……2018年の干支は「戊」。

証券界では「笑う」年だと信じられ、まことに縁起がいいとのこと。先の大納会では2万2700円台の終値を叩き出した日経平均株価。日々上昇し続け、その活況ぶりは実に1960年代の高度経済成長期以来だぞうだ。新年に入ってもこれは続き、日経平均も2万3000円台に突入した。年初恒例の経済三団体新年パーティーでは、「日本株式会社」のトップ達の多くが「今年は2万5000円台まで行く」と異口同音のご様子で、中には「3万円突破」と強気の声も。

以前なら、「キナ臭さ」は最大リスクとして市場が嫌気し、関係国の株価・通貨は暴落するのが相場だった。だが、「核・弾道ミサイル開発」というカードをちらつかせ、米国との全面戦争も辞さない構えを見せる

北朝鮮と一衣帯水の関係にある日本の市場は前述のとおり。摩訶不思議と言う他ないが、これもフィンテックのなせる業なのか。

■……トランプ氏と金正恩氏との「チキンレース」が続く中でも、外人観光客の来日には全く衰えが見られない。最近では生まれ育った東京下町の風物詩「銭湯」にも、青い目のお客さんの姿がチラホラ。「オフロ、サイコーデス！」と喜びながらも、全身真っ赤にして悪戦苦闘、「鳥の行水」よろしく15分程度で風呂場を後にするのが常。それもそのはず、下町の湯は43℃が普通で、45℃の「地獄釜」を誇る所も珍しくない。湯船に浸かる習慣に乏しい彼らには少々酷だ。そんな光景を見ながら、常連の年寄り達は大笑い。その中の1人が「エレキ！ビリビリ！」と注意を促す。「電気風呂」を初経験した「珍客」は、飛び上がった湯船を後に。風呂場は爆笑の渦である。

文字どおりの「裸の国際交流」が下町で日々行なわれているのだが、実は銭湯、ここ数年で急速に姿を消している。「3・11」に伴う耐震改修に莫大な費用がかかることや、後継者不足が主な理由らしい。庶民の

「憩いの場」を体験すべく、物見遊山で日本上陸を果たそうと試みるインバウンド達にとっては、ちょっと残念な現実ではある。

■……近くの独裁国家は相変わらず鼻息が荒いが、南部アフリカでは、約40年続いた独裁政権が、取りあえず崩壊。ジンバブエを支配し続けたムガベ氏が、軍部の圧力に屈して辞任、その後彼らが推すムナンガグワ氏が大統領の椅子に座った。事実上の無血クーデターだ。世界から厳しい経済制裁が加えられ、一時「10の108乗（！）」というハイパーインフレに陥ったこの国も、今回の独裁者の退場で民主主義が芽生えれば、もともと資源豊かで国民は勤勉なのだから、早期の復興は可能だと国際社会は期待する。

だが、一抹の不安も。ムナンガグワ氏がかつてムガベ政権で治安全般を牛耳っていた人物で、1980年代には秘密警察や軍の特殊部隊を駆使して反体制派を弾圧、一説には数万人を虐殺したとも言われている。新大統領を決める総選挙を今年実施すると約束するが、「ワニ」と仇名される彼が、果たして順守するのだろうか。（和）

月刊公論 MONTHLY  
**KORON**

2月号 第51巻2号

平成30年2月1日発行 毎月20日発売  
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人  
発行所

大 中 吉 一 編集人 和泉貴志  
株式会社財界通信社  
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル  
TEL.03-5379-5611代、FAX.03-5379-5616

印刷所  
取次店

株式会社廣済堂  
日本出版販売/大阪屋栗田  
●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。  
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。